

山田みやこの活動報告

平成30年5月26日(土)

青少年の自立を支える会

中央地区研修会に参加

これからの社会的養育の姿

～こどもの貧困・虐待の連鎖を断つ～をテーマに
NPO法人青少年自立を支える会 事務局長の福田
雅章氏の講演を聞いた。

児童養護施設 養徳園には20名が施設内、30名は施設
外の地域の5ヶ所のグループホームで家庭的養護をして
いる。地域内でごく普通の生活を職員と共に送
るために、地域分散のファミリーホームや里親が求
められている。

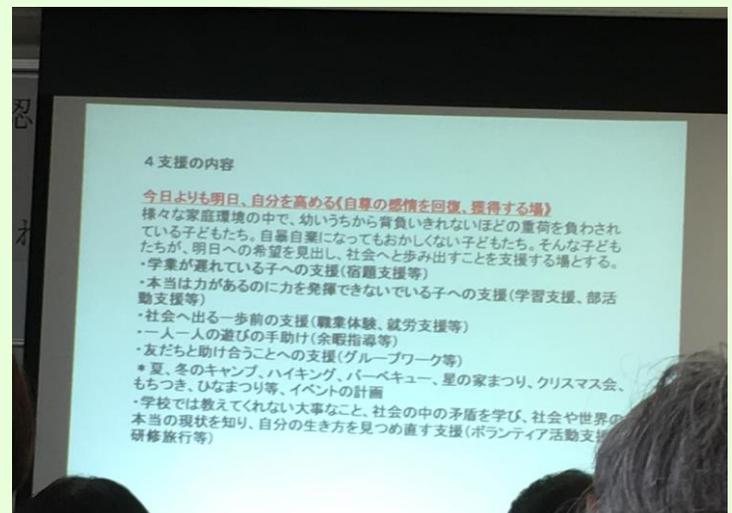
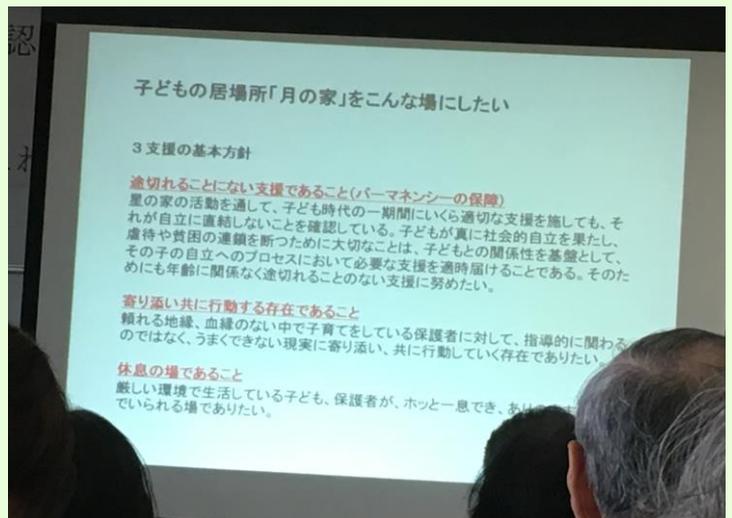
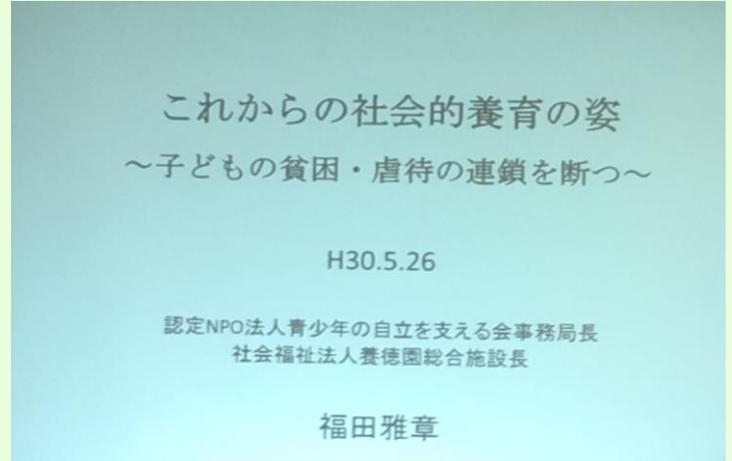
社会的養護の問題発生理由は、虐待・親の精神疾患
・生活困窮がある。義務教育終了後にさまざまな問
題が噴出して来るが、支援の手立てがないのが実情
でネグレクトに対しての支援も少なく、社会の大人
と繋がらないなどあり、適切な支援が必要。

地域で子どもを育てること

親がすべてではなく、ちゃんとした大人に関わる、
質の高い関係を経験する。

⇒子育てを社会全体で行う社会的養育をめざす。
そのためには子どもの居場所(もう一つの家)が必要。

以上の内容でした。当事者の生活を改善するファース
トステップとして一時預かりをすることが、子ども
と保護者を支えるきっかけになるものだと感じた。



平成30年5月27日(日)

栃木県地方議会女性議員連盟

設立30周年記念式典を開催

栃木県総合文化センターにおいて、知事・県議会議長・女性首長をお招きし、設立30周年記念式典と記念講演会を開催しました。

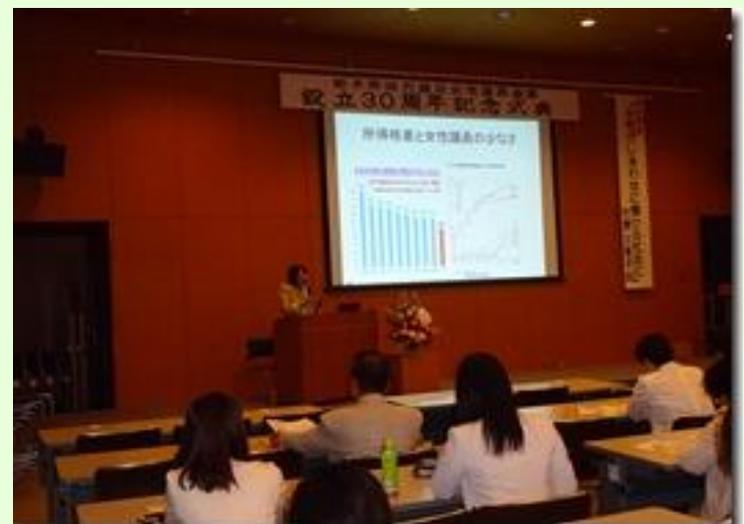
席上、知事は財務省のセクハラ問題を取り上げ、セクハラ罪という罪はないというが、罪にならなければ何をやってもいいのか。日本のトップの人たちが恥ずかしくもなく言っているこの社会は、何とかしていかななくてはならない。正していくには女性が進出する以外にないと意識を変えた、と挨拶された。

私は会長の立場で主催者として、連盟会員の中から市長・議長・副議長の職を担う方々も誕生し、しっかりと任務を果たしている。政治分野の女性の進出が必要とされるのは、社会的立場の向上と、少子高齢化や格差拡大から、弱い立場の心の痛みに対し、女性が担ってきた経験や知恵、視点が社会全体にとって不可欠になっているからだと思う。様々な局面で意思決定に関わり、議会の活性化、社会のバランスと質を上げると挨拶いたしました。

続いて記念講演は、和光大学教授 竹信三恵子氏にお話をいただきました。

元朝日新聞社記者で、当時は男性の中で女性としてバリバリ働いてきた。

男女平等ということは、女性が男性並みになることではない。女性が生きやすい仕組みに変えるという方向に持っていけば、男性にも無理がなくなる。レコードに例えると、A面は男性・B面が女性としてしまうと社会がゆがんでいく。どちらも両面を担わなければダメ。



積極的な格差是正措置がほとんどない日本。少数者(女性)がその社会に影響を及ぼすのは、3割を超えないと突破できない。

クォーター制は3割という目標を掲げることで増える仕組みにしていくことが出来る。意思決定に関わる女性議員3割を目指していくことが必要。少しずつ『勝ち癖』を付けていくこと、と力強いアドバイスをいただいた。

